

令和5(2023)年度児童館事業年間活動報告書

紫野児童館

	活動名	実施回数	参加人数									合計	内容	成果と課題		
			乳幼児	小1～3年		小4～6年		中学生	大人	ボランティア						
				自由来館	学童クラブ	自由来館	学童クラブ			中学生	大学生				大人	
基 本 的 活 動	(1) 日常の自由遊び活動															
	(2) 遊びの教室活動															
	あそびの教室「室内遊び、外あそび」	1		2	69		14						85	児童館でのあそびのルール、机の出し方など説明する。	事前にルール違反を演じて撮った写真を元に説明をし、子どもたちも興味を持って説明を聞いていた。	
	あそびの教室「けん玉・こま」	1			38								38	上級生の児童が技の披露をしたり、検定の内容受け方の説明をする。	技の披露で拍手が起こり、教室の後は初めての児童も挑戦する姿が多く見られた。	
	こま検定	25			117		2						119	5月、3月は週間で行ない、それ以外の月は月末の2日間検定を行う。年度末に級の認定証、挑戦数が多かった児童の表彰を行う。	級の途中に難しい技があり、こまで遊ぶが検定は受けないと諦めてしまう児童もいる一方で、粘り強く練習をし、級を進める子もいる。もう一歩先へ挑戦できるようなしかけが必要である。	
	けん玉検定														少しずつ技を習得し級を上げていく児童がいるが、一定の級で止まっている児童も多く、技のコツなど教える機会も必要である。	
	あそびの教室「オセロマンカラ」	1			30								30	オセロ、マンカラのルール、大会の出場方法を説明する。	全くルールを知らない児童は少ないが、大会でのルールを身に付けるよう説明した。	
	オセロマンカラ週間	5			115		8						123	対戦者の名前を記入するカードを用いて、多くの児童同士で対戦できるようにする。	たくさん対戦することで、学年や小学校を超えて、児童の名前を覚えるきっかけにもなった。	
	あそびの教室「きりえ」	1			73		4						77	全児童対象にカッターナイフの使い方やきりえの進め方の説明を行う。	1年生は初めての説明、2年生以上も緊張感を持ってきりえに取り組むことにつながった。	
	きりえ週間(年3回)	17			235		5						240	7月は1年生は基本の切り方を習得できる簡単な図に挑戦し、他学年は自分のレベルにあった図を選んできりえを作成した。	ほとんどの児童が作品に挑戦し、完成することができた。1月のきりえは作品展に向けてとなるので、難しい図柄に挑戦する児童もいた。人数が多いので期間中の枚数を限定しているが、もっとやりたい児童への対応を検討していきたい。	
	あそびの教室「卓球」	1		1	58		13						72	卓球のルールを見やすいように大きなピン球を使って説明する。	基礎的なルールだけの説明でわかりやすく、卓球に挑戦する1年生も多くなる。自館以外の卓球の交流に向けてルールをどこまで細かく教えるか課題である。	
	卓球週間	14		2	214		23				1		240	1台で王様形式で進め期間と、2台で試合形式で行なう期間を設ける。	勝敗だけでなく、打ち方など児童同士で教える姿もあった。「むらさきのカップ」に向けて真剣に練習する児童もいた。	
	あそびの教室「ドッジボール」	1		2	57		1						60	ドッジボールフェスティバルに向けてドッジボールのルールの説明、確認をする。	基本的なルールに加え、ドッジボールフェスティバル独自のルールを全員で確認する。あそびの中でルールが緩んでいたため、説明を受けて職員からの注意も入りやすくなった。	
	ドッジボール週間	7		10	394	1	21						426	多くの児童が参加できるようにチーム編成を工夫してドッジボールの練習をする。	日ごとに男女別や学年別のチーム編成にしたので、苦手の児童も負担が少なく楽しさを味わいながら参加できた。	
	あそびの教室「かまぼこおとし」	1			65		1						66	かまぼこおとしのルールの説明、大会での注意事項を説明する。	あそびの教室の前に職員でルールの統一を実施し、日常のあそびの中では曖昧になりがちな部分も改めて説明することで、練習に実が入るようになり	
	クリスマス工作	5	1	6	129		5		3				144	毛糸や装飾シールでミニリースを作る。	毛糸の色や装飾が選べたので、思い思いのリースが完成し喜んでた。工作を喜んでいたので、年間にもう少し取り組んでいきたい。	
	かまぼこおとし週間	8		1	109		6						116	かまぼこおとし大会に向けて練習をする。	大会出場かどうかに関わらず、多くの児童が参加してかまぼこおとしを楽しむことができた。大会にはでたくない児童に対して「週間」に多く参加したことを評価する機会も考えたい。	
	(3) 行事活動															
	マンカラ大会	1			71		7						78	個人戦で、トーナメント方式で行う。準決勝、決勝は出席児童全員で観戦する。	準決勝、決勝の対戦の様子をスクリーンで映し出すことで、マンカラの強い児童の戦術もよくわかり、関心している児童も多かった。上の試合に進むにつれ時間がかかるので、大会全体の時間配分を考慮する必要がある。	
	こども夏まつり実行委員会	4				6	14						20	夏まつりに向けて子どもたちが企画から参画する。	実行委員、学童クラブの3年生と高学年がつくる子どものお店がならんだ。昨年度に引き続き、子どもたちが楽しみにしている夏まつりを開催でき、喜びの声を多く聞くことができた。	
	こども夏まつり	1		2	82	4	13						101	夏まつり実行委員会を中心に、準備、店番などをし、夏のイベントとする。	学年ごとに楽しむ側、楽しませる側にわかれて、それぞれが楽しむことができた。	
卓球むらさきのカップ	1			59		4						63	学年混合のチーム戦で卓球の試合をする。決勝戦は全員で観戦する。	チーム内で声を掛け合ったり、応援する姿が多く見られた。当日にエントリーの変更がありチーム編成の変更になるので、急な変更にも対応するかが課題である。		
おばけやしき実行委員会	3			20		4						24	おばけやしきの内容の話合い、グッズや看板の制作、当日の役割決めをする。	日々の生活の中では見られないほど、生き生きと楽しそうにグッズを作る児童もいた。自分たちが考えた物が形になる経験もできた。		
おばけやしき	1		6	74	1	6						87				
やきいもパーティー	1	24	2	67	1	5			16			115	館のグラウンドで焼いたやきいもを午前中は乳幼児向けに、午後は小学生向けに味わってもらう。	午前中はあそびの広場仕様で自由あそびが主となるが、参加者が少なかったのが課題である。午後は児童が考えた「いも数えゲーム」で盛り上がった。外でやきいもを食べられたことに喜んでた。		
館外活動「京都水族館」	1		24	15		1						40	リクエストボックスを設置し子どもたちに遠足の行き先の希望を聞き、リクエストの多かった「京都水族館」に遠足に行く。	児童が行き先決定の投票に参加できて、より楽しみにしていた。館内ではグループ行動にしたが、分裂したり、意見の相違でグループ行動が難しいグループがあった。		
ドッジむらさきのカップ2023	1		2	66		5						73	3チームに分かれてドッジボールの対戦する。	チーム内で上級生が下級生を守ったり、励ましたり協力して試合に臨んでいた。女子の参加も多くあり、自信につながった。		

成 機 能	クリスマス会実行委員会	2		1	3							4	クリスマス会に向けての出し物を決めたり、ポスター作りをする。	自分たちで作り上げていく過程を楽しみながら、クリスマス会に向けて準備を進めることができた。	
	クリスマス会	1		8	67		7	1	7			1	91	学童、職員出し物、サンタ登場の後、プレゼント渡しをした。	学童クラブの3年生が中心となって、司会やゲームの進行をしてもらった。楽しい時間を共有することで、子どもたち同士の交流も進んだ。
	合同避難訓練	1		1	67		7						75	北合同福祉センター全体での避難訓練を実施する。	訓練の時にしゃべっている児童が多く、非常ベルが鳴った時は放送を開けるように、さっと逃げられるようにしようと消防署員からの講評だった。
	大そうじ	1			46		3						49	各部屋、玄関グラウンドを手分けして掃除をする。	くじ引きで担当を決め、エコくらぶで作ったマツイ棒を片手に普段は手の届かない場所も掃除ができた。掃除後はみんなでたこ焼きを食べて慰労会とし、喜んでた。
	ドッジ2days、リハーサル	3		3	51		3						57	ドッジボールフェスティバルに向けて練習をする。	フェスティバル出場児童、ドッジボールをしたい児童のみで本番さながらの緊張感を持って練習ができ、本番への気持ちも高められた。
	お正月あそび	1	1		25		4		1				31	カルタや坊主捲りなどお正月にちなんだあそびを楽しむ。	日頃あそんでいない児童同士でも、あそびを設定すると和気あいあいとあそべた。
	かまぼこおとし大会	1		1	57		1						59	個人戦で、トーナメント方式でかまぼこおとしを競う。決勝は出席児童全員で観戦する。	週間で取り組んでいた児童は多かったが、大会出場児童は少なかった。大会に出たくない児童の気持ちも大切につつ、出場に向けての一押しも引き続きしていく。応援する時のルールを説明する必要がある。
	安全の日	11	5	3	644	2	57		18				731	緊急時の集合、整列、点呼の後、安全、災害にまつわる話、クイズをする。	回を重ねることに整列までの時間も短縮でき、定着した。一方で認識が甘く参加を嫌がる児童への対応が課題である。
	エコくらぶ	12		2	790		64						856	主に環境にまつわるクイズ形式の話をする。	以前にしたクイズの内容を覚えていてそれを発展させて答えている児童もいるので、エコに関する知識が深まっている。廃材を使った工作など参加型の取組も取り入れたい。
	(4)クラブ活動														
	エンジョイクラブ	14				46	17						63	小学4年以上の登録制クラブ。メンバーで活動内容を決めて、工作やクッキングを行う。	後片付けを嫌がったり、活動内容を決める時に無気力な言動があったり、積極的に取り組む姿勢が少なかった。児童が見通しを持って計画が立てられるように進めていきたい。(7)中高生の参加はなかったが、どのようにつなげていくのか課題である。
	(5)地域間交流														
	北・上京・中京区ブロック児童館学童保育所まつり	1	8	16	14	2	1		32			1	74	北・上京・中京区の児童館学童保育所が一堂に集まり、ステージ発表や、コーナーあそびを楽しむ。	大型トランポリン、あそびのコーナー、体験コーナーなど児童館の中ではできないことを体験することができた。
	ふれあい卓球大会	1	4	10	10	2	1		13				40	老センの卓球サークルの方、保護者、児童の混合チームを卓球の交流をする。	児童対保護者、保護者対老センの方、など様々な対戦があり、大いに盛り上がった。後日お礼のメッセージを3、4年児童が書き、老センで手渡し、練習も見学させていただくことができた。
	卓球交流会	1		7	2								9	柘野児童館、大宮西野山児童館と混合チームを作り卓球で交流する。	試合の後の交流の時間で多くの児童と対戦ができて、良い刺激をもらった。
	FUNAOKA STANDARD 2023	1	16	26	12	2	1		51				108	北区の福祉施設のまつりに参加する。	ステージ発表やあそびのコーナー、多くの模擬店があり、楽しんでいた。
	ドッジボールフェスティバル	1			26		1					1	28	1ブロックの児童館学童保育所とのドッジボール交流試合をする。	アリーナの往復は2グループに分けて行動した為、大きな混乱はなく行けた。学年混合でチームを編成し試合に臨む、試合に勝ったことに喜びを全身で表す児童が多く、達成感を味わえた。
	スマイルフェスタ	1	4	13	14	4	1	3	28				67	老セン、授産所、地域のダンススクール、民協と協力をして世代間交流を図る。	盆ダンスサークルとの交流、みんなあそびで交流を深め、ダンススクールの発表は中高生のダンスに圧倒されたが、興味を持って見て、最後に会場全体でダンスをすることで一体感を感じられた。
	家族であそぼう「かまぼこおとし」	1	1	3	11		1		3				19	児童、保護者、職員混合で二人ずつチームを組み、かまぼこおとしをする。	保護者の参加は少なかったが、館で流行っているあそびを一緒に体験し、児童の様子を直接見ていただく良い機会となった。
	合 計	156	64	154	3996	71	331	4	172	0	0	4	4798		
推 進 活 動															
合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
子ども育成機能 合 計	156	64	154	3996	71	331	4	172	0	0	4	4798			

*注 基本活動は、指針に基づき(2)遊びの教室活動(3)行事活動(4)クラブ活動(5)地域間交流促進活動(6)障害のある児童の居場所づくりと活動への参加促進(7)思春期児童の活動支援に分類して記入すること。
 推進活動は、指針に基づき(9)地域を知る活動(10)移動児童館活動に分類して記入すること。
 指定活動は、指定児童館のみ別途報告すること。